

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	豊住 竜志
主な担当科目	ハーモニー演習③,ポリフォニー演習,ミュージックセオリー(上級),鍵盤ソルフェージュ①,作曲Ⅱ①,修士楽曲分析特殊講義Ⅰ,対位法,聴音・視唱ソルフェージュ③,博士楽曲研究特講Ⅱ,作曲
2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	作曲(主科・副科)レッスンおよび音楽理論／ソルフェージュ等のクラス授業を担当した。授業評価アンケートの結果を参考に、授業運用の改善を常に意識し、学生にとって理解しやすい授業の実施を目標とした。学生一人ひとりの個性を尊重し、その能力・資質の向上に貢献するため、課題や演習内容を多角的に検討し、内容の充実を図った。また、昨年より取り組んできた「作曲の理論テキスト」が完成し、レッスンにおいて活用している。さらに、昨年に引き続き他教員と共同で、YouTubeを用いたソルフェージュ自習用教材の作成にも取り組んだ。
2025年の教育に関する自己評価	レッスンを担当した学生の歌曲が「卒業演奏会」に選出され、初演されるなど、実践的な成果を挙げることができた。今年度より取り組んできた「作曲の理論テキスト」は完成し、現在レッスンで活用しているが、作曲を初めて学ぶ学生にとっても実践的に活用できている様子がうかがえる。今後も改訂を重ねながら、継続的にレッスンで活用していきたい。また、今年度もYouTubeによるソルフェージュ自習用教材(上級)を、中級に引き続いて作成したことで、ソルフェージュを学ぶ学生全体を対象とした教育的成果を挙げることができたと考えている。
2025年のFD活動に関する自己評価	年間テーマを中心とした研修や、授業運用に関する教員間の意見交換に積極的に取り組み、見識を深めることができた。FD全体研修会では、内容が充実しており、今後の授業運用や学内運営に携わるうえで大いに参考となった。また、ソルフェージュFD研修会においては、今年度から実施されている「セメスター制による新カリキュラム」に関する授業運用等について、非常勤講師の先生方と積極的かつ活発な意見交換を行った。
授業改善のために取り入れた研修内容	各教員が実践している指導法や授業運用方法を積極的に取り入れた。とりわけ、学生の理解度を高める工夫や、学生と接するうえで留意すべき点は大いに参考となった。また、ソルフェージュFD研修会における意見交換は、今年度から実施されている「セメスター制による新カリキュラム」の授業運用に関して非常に有益であり、その内容を踏まえて、次年度の授業運用方法や時間割編成に実際に反映させた。

2025 年度(春学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:0274 教員名:豊住 竜志

1)アンケート結果に対する所見

春学期半期で完結する担当科目は「修士楽曲分析特殊講義Ⅰ」のみであり、この授業改善計画書では本科目1科目について述べる。Q6に1名「少し思う」の回答をされている以外は全ての設問において全員が「そう思う」の回答であった。かなり良好な回答が得られたと思われる。

2)要望への対応・改善方策

全体的に良い結果であったことや要望の記述がない状況であるが、Q6は「この授業はわかりやすくするための工夫がなされている」という設問であり、上記アンケート結果の所見から1名ではあるものの「少し思う」との回答が見られたことを踏まえて、学生の理解度を良く観察／把握しながら、よりわかりやすい授業運用を行っていきたいと考えている。

3)今後の課題

自由記述欄に「毎回新しい気付きと深い学びにあふれている」や「創作に対する考え方や視点も広げてくれた」などの良好な感想も寄せられており、これらの記述や授業時の受講生の様子から考えて、学生の楽曲分析力や音楽に対する視野が広がった印象である。今回の良好な結果は受講生の学修姿勢が非常に「積極的・自主的・意欲的」であったことも大きな要因であり、彼らの姿勢から授業担当者として大いに触発されることが多数あったことが挙げられる。今後も引き続き様々な工夫を取り入れながら授業を行っていきたい。

以 上

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:0274 教員名:豊住 竜志

1)アンケート結果に対する所見

【実技レッスンについて】

担当科目は 作曲・エレクトロニクス実技(主科)および 作曲Ⅱ(副科)である。学生の出席状況に関する設問を除き、回答はすべて「そう思う」(科目平均値 4.00)であり、自由記述欄にも「実例を交えた説明がわかりやすく、作曲の発想や構成の考え方が広がった」との記述があった。例年同様、非常に良好な結果であり、また、担当学生が卒業演奏会に選抜されるなどの指導成果が具体的に表れている点も付記しておきたい。

【クラス授業について】

「対位法」「ポリフォニー演習」「鍵盤ソルフェージュ①」については「そう思う」の回答が多く科目平均値もほぼ 4.00 と良好な結果である。「ミュージックセオリー(上級)」「聴音・視唱ソルフェージュ③」については一部の設問に「少しそう思う」回答が見られるが、Q10 他授業への満足度についての設問は総じて良好であった。

2)要望への対応・改善方策

【実技レッスンについて】

自由記述欄に特に要望等はなく、数年間良好な回答が継続して得られており、今後も作曲の技術指導の他音楽的感性や発想力を育成して、学生の創作能力を高めて個性的な創造性を育成していきたい。

【クラス授業について】

自由記述欄に「授業内容や説明がわかりやすい、有意義な学修ができた、作曲の役に立った」などがあり、以前から授業運用や説明方法に関する工夫に取り組んだ結果が出ていると思われるため引き続きより良い授業運用を心がけたい。ここ数年他教員と共同で作成している聴音自習用課題「ICT を活用した YouTube によるソルフェージュ課題」を Basic Advanced Special にわたる 3 コンテンツを完成させ、授業外学修の充実をはかる取り組みを行った。

3)今後の課題

授業運用の工夫により学生の理解度向上が見られる一方、出席率など学生自身に関する設問の数値が若干低いケースが見られるため、今後は学生がさらに意欲的に学修へ取り組めるよう、動機づけにつながる示唆や細やかな指導方法を検討したい。さらに、昨年度完成した副科作曲用の教科書のような授業テキストの開発や、ICT を活用したコンテンツ制作の研究も継続して進めていく予定である。

以 上